

図書館コーナー

福島県公共図書館の概況

—平成四年度実績から—

毎年、県立図書館では県内公共図書館を取りまく環境や情勢は、通常面から少しずつ進展していくため、あまり急激な変化を見せることがないが、この数年、大きな変化が見え始めている。

それは、情報化社会や生涯学習時代の到来が、言葉だけではなく、実際に具現化してきたということであるが、これは、図書館に次のような変化をもたらした。

①「町村での図書館設置の促進」
 ②「コンピュータの導入」
 ③「ニユーメディアの普及」

以前、町村に図書館を作ることは難しいとされてきた。それは、中小図書館といわれるものでさえ、人口五万人程度の小都市図書館を指し、町村においては、財政的にも良い図書館はできないとされていたからである。しかし、決して大きな自治体の図書館だから活動が良いとはいえない。むしろ本県では、下表参照の如きが見られるようになつた。

次にコンピュータの普及は、図書館が情報センターであることを痛感させてくれた。図書館においては、事務処理の効率化より、むしろ情報の多面的活用に重点がおかれ、そのサービスシステムに大きな変革をもたらした。現在七市町村が導入し、今後予定している所も多い。

国際的には、データベースも電算システムも、日本はまだまだ比較にならない。

とおり、双葉町や岩瀬村など人口一万人未満の町村が目立った活動をしている。

大きな図書館は、多くの蔵書と利用者により、職員はスーパーのレジにでもいるかのような貸出処理をこなしている。勿論、利用が多いことは素晴らしいことであるが、それだけは素晴らしいことであるが、それだけは良い図書館とはいえない。出会いや発見、コミュニケーションがかなサービスを行うことで、資料や奉仕人口の少なさを補い、良い図書館を作り上げてきた。その活躍は、小さな図書館は、地域へのきめ細かいサービスを行っており、資料や奉仕人口の少なさを補い、良い図書館といえるのではないだろうか。

更に、ニューメディアの普及やマンガの導入も進んでいるが、これは今まで利用の少なかつた、中高生を中心とした新しい利用者層を開拓することとなつた。

高度な図書と、それを利用する者

ならないが、今後は、コンピュータによるネットワークの形成や遠隔地サービス等、図書館運営の進展が期待されるところである。

さらに、公共図書館本来の姿となつてきている。言い換えるならば、図書館が特別な施設ではなく、一般のもとのとなつてきた現れといえる。生涯学習時代、図書館は必要不可欠なのである。

【人口1人当貸出冊数及び人口1人当資料費・蔵書回転率〔本館及びBM〕】

市町村名	管内人口	蔵書冊数	貸出冊数	貸出冊数 〔※〕	資料費(円) 〔※〕	蔵書 回転率	蔵書冊数 〔※〕
福島市	279,938	387,586	727,797	2.60	275.2	1.88	1.38
会津若松市	118,659	226,919	271,123	2.28	156.5	1.19	1.19
郡山市	319,567	522,925	1,207,269	3.78	240.6	2.31	1.64
いわき市	357,201	410,690	663,529	1.86	151.6	1.62	1.15
白河市	46,298	56,234	96,568	2.09	161.3	1.72	1.21
原町市	49,200	78,381	86,463	1.76	149.1	1.10	1.59
須賀川市	62,587	85,640	112,972	1.81	228.8	1.32	1.37
喜多方市	37,248	74,910	58,870	1.58	155.2	0.79	2.01
相馬市	39,294	52,973	53,039	1.35	156.8	1.00	1.35
二本松市	35,360	69,636	59,993	1.70	191.8	0.86	1.97
三春町	19,594	38,580	38,795	1.98	275.3	1.01	1.97
船引町	24,072	53,460	29,997	1.25	317.8	0.56	2.22
矢吹町	18,999	30,327	26,207	1.38	161.6	0.86	1.60
棚塙町	16,515	25,137	14,443	0.87	154.0	0.57	1.52
双葉町	11,808	25,814	35,658	3.02	1,106.0	1.38	2.19
岩瀬村	8,045	64,397	52,958	6.58	645.2	0.82	8.00
	5,962	30,062	25,791	4.33	520.5	0.86	5.04

平成5年4月1日現在／※印は人口1人当たり